



苗半作 畑苗代に思う

秋の収穫を目指し、様々な栽培方法を考えてみよう

田植の最盛期を迎えていますが、今年の苗の生育はどうだったでしょうか。風の強い日は多少ありましたが、育苗期間中は比較的好天に恵まれてしつかりした苗ができたのではないでしょう。か。何しろ昔から「苗半作」といわれていますから。

我が家では自家用の苗は自分で播種してプールで管理していますが、その他に農協から3千箱の苗を委託し、管理を始めて20年余りになります。今年も4月24日に芽苗が運び込まれ、5月10日に搬出されます。16日間で2.5葉、12〜13cmの規格に仕上げなければなりません。受託をはじめて以来、一回も失敗がなかったのが自慢ではありますが、天候しだい温度管理を変え、散水量を調節するのは結構神経を使います。

以前は育苗時期も今より多少早かったのですが、始めは保温に気を使ったのですが

最近ではまったく逆に早くから開放して、苗が徒長してしまうのを防ぐことに気を使っています。

特に、自家用の苗の一部をビニールハウス内で無加温発芽させ、プール育苗しています。第1鞘長を早く抑えるには、早くから夜間も開放してもビニールハウスによる保温効果が障害になつていきます。ただし、発芽までの日数はハウス内の方が短縮されるのは当然です。

「柏崎夢の森公園」には水田と畑があり、公園周辺地域の皆さんが「有機農」、公園の講座として「自然農」の二通りのやり方で米と野菜を作っています。自然農は月に1〜2回の講座が年間を通して受講生30名で開かれます。今年希望者が多くて抽選でした。頼まれて自然農の米作りの部分だけの講師をボランティアでやっています。面白い体験をしました。

畑苗代での育苗ですが、昨年の稲株と雑草を土の表面と一緒にノコギリ鎌で削り取り、10cm間隔で巾と深さが1cm位の溝を作り、芽だしをした種物を蒔いて薫炭をかぶせました。昨年は公園のスタッフの指導で



したが発芽率が極めて悪く、苗が足りなくなつてしまいました。私が自身も畑苗代は初めての経験です。でも、まったく自信がありませんでした。特に保温材に何をしようか迷っていました。常時管理できないのですから、高温障害を防ぐことと除去のタイミングをあまり気にしなくてもよいのではないかと、ということから、不織布を使うことにしました。

ところが、天候に恵まれたこともあったので、私の屋外のプール育苗よりも5日も早く、申し分のない発芽率で一斉に発芽してくれました。私の場合は始めに指導を受けたとおり、アルミ蒸着シートと緑化シートを二重にかけていきました。日中の温度が上がらなかつたので、発芽が遅れてしまつたのだと思われず。ハウス内では有効なやり方が屋外では通用しなかつたということ。講座終了



後のミーティングで受講生が「色んな作業一つ一つにちゃんと理由があることがわかりました。」と発言していました。田植は5月31日に予定されていますが、やり方は不耕起のままの田面に草刈鎌で穴を開けながら苗を差込み、その後に入水して水田にします。米作りは八十八手間と言われるほど多くの作業があります。その作業一つ一つは目的ではなく、あくまでも手段に過ぎません。育苗様式にしても水苗代からさまざまな変遷を経て現在の主流はハウス育苗でしょうが、プール育苗も普及しつつあります。それぞれに長短があります。自分自身の労働力配分、必要とする苗質や葉齢、田植時期等によって選択すれば良いのですが、それぞれの育苗様式



によって技術対応が同じものもありませんが、まったく別のやり方をしなければならぬものもあります。時にはそれまで蓄積していた経験や技術が妨げになつてしまうことすらあるということ。育苗以外の全ての作業についても従来のやり方を単に繰り返すだけでなく、作業の目的や理由、経費などについて洗いなおしてみても必要ではないでしょうか。それまで思いもしなかつたことに気づくこともありません。先人の長い経験を経て獲得された豊かな知恵に気付かされることも多かつて少なくないでしょう。

(内山常蔵記)

